



支え合って50年 金婚をお祝いする会

10月22日、美郷町公民館で「金婚をお祝いする会」が開かれ、昭和38年に婚姻届を提出したご夫婦22組が出席しました。会では、町内のコーラスグループによるお祝いの歌に続いて松田町長が「山あり谷ありの経験をともに乗り越えてきたからこそ、今の夫婦の姿があるはず。二人で築き上げてきた時間を大切に、次の目標を見出し歩んでほしい」とお祝いの言葉を述べ、出席された夫婦一組一組に讃詞と記念品を贈呈しました。また、祝宴では唄や踊りのアトラクションが行われ、夫婦の記念日に華を添えました。

ごみと一緒に良心まで捨てていませんか？ 大量の廃タイヤが不法投棄されていました

10月31日、千畑地区に不法投棄されていた廃棄物の撤去作業が行われました。撤去作業には、大仙保健所、町、秋田県産業廃棄物協会県南支部、地域住民の方々が参加。ブラウン管テレビや廃タイヤなど約2トンにおよぶ廃棄物を丁寧に取り除きました。

不法投棄は廃棄物処理に関する法律や河川法などにより罰せられます。ささいな出来心で多額の経費や信用を失うなどの犠牲を払わないよう、ごみは町で決められた方法で指定された場所に出すようにしましょう。



高齢者見守り等を強化 町と郵便局が協定締結

11月7日、美郷町役場で「美郷町と大曲郵便局及び美郷町内郵便局の高齢者等見守り活動の相互協力及び道路等損傷箇所発見時の対応に関する協定」の締結式が行われました。

協定は、高齢者等の安全・安心な暮らしの実現や交通事故の未然防止等を目的に締結。町を管轄する大曲郵便局と六郷、千屋、仙南郵便局の配達員等の社員が、日常業務において高齢者の見守り活動を行うほか、道路等の損傷箇所を発見した際には町へ連絡することなどが規定されています。

締結式では、松田町長と渡部徹大曲郵便局長が協定書を取り交わしました。松田町長は「地域内の企業や個人からの協力は、町の望ましい姿に向けて強く進んでいることを感じる。今回の協定をきっかけとして、さらなる多面的な取り組みにつなげたい」と期待を込めると、渡部局長は「協定は郵便局の機動力を生かした取り組みとなっている。地域のために一つでも多くの役に立つ情報を提供し、安全・安心な美郷町に貢献したい」と応えました。



▲握手を交わす松田町長(写真左)と渡部徹大曲郵便局長



美郷産品は今年も大好評 OTAふれあいフェスタ2013

11月16日と17日の2日間、東京都大田区のポートレース平和島等を会場に「OTAふれあいフェスタ2013」が開催され、美郷町からは町内10団体が参加しました。

本町のブースでは農産物や日本酒などの美郷の特産品を販売。美郷米PRコーナーでは、観光レディが試食を提供しながらさらなる売り込みを図りました。今年は、アクア美郷ジャズセッションの皆さんも参加。ステージ上でジャズ演奏を披露し、来年の国民文化祭開催をPRしました。さらに、「ゆるキャラ大集合」のコーナーには美郷のミズモが登場し、イラスト入りの名刺を配ったり来場者の写真撮影に応じたりするなど、大田区や長野県東御市のイメージキャラクターらとともに会場内を大いに盛り上げました。





人間としてよく生きるとは 詩人 谷川俊太郎さんと語る会

11月10日、美郷中学校で同校の校歌を作詞した詩人の谷川俊太郎さんをお招きした「語る会」が行われ、「人間としてよく生きるとは」をテーマに、全校生徒が谷川さんと語り合いました。

「さまざまな人間が集まって心ひとつになるためには、どのようなことが大事ですか」という生徒からの問いに、谷川さんは「みんな違って、しかもそれを認め合う。自分たちと違うものを排除したり、いじめたり、否定したりしないということはすごく大事だと思う」と答えました。

次に3年4組生徒全員で作った詩の発表、谷川さんによる詩の朗読の後、全校生徒が校歌を斉唱しました。最後に代表生徒が「美郷中の個性が出ている校歌を、これからも大切に歌っていきたいと思います。今日は本当にありがとうございました」とお礼の言葉と共に、谷川さんに花束を手渡しました。



▲生徒と語り合う
谷川俊太郎さん(写真中央)

連携の所産

美郷町長 松田知己

風



谷川俊太郎さんと
談笑する松田町長
(写真左)

今の世の中、「普通はあり得ないでしょ」と思っていたことが、「あり得ちゃったね」という時代になってしまいました。一回発生すれば暫くなかった自然災害は当たり前のように頻発していますし、米の需給バランスを取るための減反政策はバランスが取れていないのに廃止の様子ですし、秋の園遊会では非常識な所作が臆面もなくなされていきます…。残念！の一言です。

あり得ない話の続きでは、先月の雪もあり得ない降雪でした。確かにここ3年は豪雪でしたし、今年も豪雪との予報もありました。しかし初雪で、しかも11月前半であればないでしょう。おかげで除雪部隊はてんやわんや。そのため除雪対応も十分とは言えず、町民各位のご期待に応えられないところもあったものと思います。しかし、その後は例年どおりの体制に整っていますので、どうかご容赦いただきましたと思います。

さて、あり得ない話は何も悪い話だけではありません。いい話だってあります。みなさんも既にご覧になったかと思いますが、町が協定を結んでいる株式会社龍角散のテレビCM。なんと最後に「美郷町と連携協定を結びました」とテロップが入っています。このCM、全国放送

とのことですので、美郷町の名前が全国進出です。町では全くとお金を出していませんので、龍角散のご厚意です。ああ、こんなことをしてくれるなんて…なんて嬉しい！

そしてもう一つ嬉しい話。やはり連携協定を結んでいる日本航空株式会社。今年6月にラグビーとチャリダーのチームが来町しましたが、新作のオフィシャルハンドブックに「秋田県美郷町」が2カ所で紹介されています。これも全国に配布されるハンドブック。まさに、JALさまさまです。

企業によるこうした自治体情報の配信、ひと昔前にはあり得ない話だっただろうと思います。しかし今は「あり得る」時代になっています。とするならば、美郷町は身の丈を意識しながら、今後いろいろな方々とお付き合いをし、ネットワークを広げていきたいと思っています。意欲があれば、ネットワークはいつか必ずチャンスを生むと思うからです。これ、私の信念です。